

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 気道炎症の慢性化機構の解明と病態制御治療戦略の基盤構築
2. 研究代表者： 中山 俊憲（千葉大学大学院医学研究院 教授）
3. 中間評価結果

（1）研究課題の進捗状況と成果の見込みについて

○総合評価コメント：

本研究課題は、炎症の慢性化と病態の遷延化に大きな役割を果たすと考えられる「有害な病原性記憶ヘルパーT（Th）細胞」の形成・生存・機能維持の分子機構を明らかにすることを目的とし、記憶 Th 細胞の形成・機能転換の分子機構や、記憶 Th 細胞微小環境の解析を分子・細胞・個体レベルで進めると共に、病原性記憶 Th 細胞の制御による新たな治療戦略の確立のため、気道炎症慢性化に関わる機能分子を標的にした慢性炎症制御法の開発、ヒト難治性慢性気道炎症疾患における病的記憶 Th 細胞の関与について解析を行っている。

これまでのところ、期待を超えるような十分な研究の進捗が認められ、気道炎症の慢性化における病原性記憶 Th 細胞の各サブセットの重要性がマウスにおいて明らかになり、またアレルギー反応を引き起こす Th2 細胞分化を転写因子 Sox4 が抑制することなどが明らかになっている。また、臨床検体を用いて病原性記憶 Th 細胞の関与について精力的な解析が進められている。さらに特筆すべきは、本研究課題の成果が世界トップクラスの論文に数多く掲載されていることである。研究チーム構成に関しても、研究代表者の強力なリーダーシップのもと、若手の基礎研究者から臨床研究者に至る数多くの研究者の連携・協力とともに研究が進められている。今後とも、慢性炎症性疾患、特に難治性の慢性気道炎症性疾患の新たな診断・治療法に繋がるさらなる成果の創出が期待される。